

NIHONJIN NO WASUREMONO  
**日本人の忘れもの**  
 第2部 忘れもの 24  
 忘れもの 24

対談

### 人材養成



**小路明善氏**  
 アサヒビール株式会社代表取締役社長

## 改革には均質な組織より多様な人材が不可欠

## 多面的な視点から問題を分析できる力を

**小林一彦氏**  
 京都産業大学化学部教授



**小川一彦氏**  
 京都産業大学化学部教授

ろ、お正月などに大人から飲酒を勧められた経験のある人は少なくないと思います。一方、学生の飲酒事故は後を絶たず、学内での飲酒を禁止する動きが広がっています。大学も注意喚起していますが、教員も研究と教育だけしていたのでは社会的使命を果たせない時代です。

**小路** ●より低年齢層への啓発が必要と考え、当社では未成年者飲酒防止啓発用教材を発行し、全国の小中学校、高校や大学でも活用いただいています。ケータイやネットの普及にもない対面の会話を苦手とする若者が増えているようですが、相手の表情やしぐさから伝わる「情」もあります。豊かな会話こそ今の日本人が忘れてしまっているのではないのでしょうか。もちろん成年に限

りませんが、潤滑油になるお酒をコミュニケーションツールとして上手に使ってほしいですね。

**小林** ●経産省は、仕事をしていく上で必要とされる「社会人基礎力」の育成を提唱しています。特に大切だと私が思うのは相手の話を丁寧に聞く「傾聴力」。日本の学校教育は偏差値のように一元的な価値観だけで生徒を序列化してきましたが、知識だけでは測れない能力もあります。多面的な視点から問題を分析できる力を若い人には身につけてほしいと考えています。

代を超えて生き続けてきたのは、ヒントを得ようとして手を取り共感する人がいたからです。文化もそれを受容する人がいなければ継承されません。室町文化や安土桃山文化は時の権力者の保護があったからこそ花開きました。鈴木大拙が「禅」を英語で書き、海外に発信したのは昭和初期。自国の文化に親しみ、その独自性を世界に示せる人材の育成が求められています。

**小路** ●当社の初代社長・山本為三郎も芸術文化支援には熱心で、社内にDNAとして受け継がれています。おかげさまで公益社団法人企業メセナ協議会主催の「メセナアワード2012」でメセナ大賞を受賞しました。文化による地域再生を目指して2002年から全国のアートNPOなどと協働で開催してきた「アサヒ・アート・フェスティバル」を始めとする多様な取り組みが評価されたものです。山本の取集品を所蔵するアサヒビール大山崎山荘美術館(大山崎町)では安藤忠雄氏設計の多目的ホール「夢の箱」も今年オープンしました。芸術や文化を身近に感じてもらえればと思います。お散歩がてら足を運んでみてください。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千の年・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

**小林** ●歌は世に「つれ世は歌につれ」といいますが、お酒の好みも食文化の変化を反映しているといえることですね。地域限定の商品も数多く出されていますが、季節限定とは趣旨が異なるように、効果優先のインフラ整備で地域固有の風土や景観は失われつつあります。地域限定ラベルに込められた思いは何ですか。

**小路** ●昨年発売の「平泉文化遺産」ラベルなどですね。中には20年近く続い

●こうじ・あきよし  
 1951年生まれ。75年アサヒビール株式会社入社。同社執行役員やアサヒ飲料株式会社専務取締役などを経て、2011年7月、アサヒグループホールディングス株式会社取締役兼アサヒビール株式会社代表取締役社長に就任する。

●こばやし・かずひこ  
 1960年、栃木県生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。洗足学園音楽短期大を経て、現職。専門は日本古典文学。2010年経済産業省主催の大学生を対象にした「社会人基礎力育成グランプリ」で準大賞、優秀指導賞をダブル受賞するなど若者の人材育成にも取り組む。

●こばやし・かずひこ  
 1960年、栃木県生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。洗足学園音楽短期大を経て、現職。専門は日本古典文学。2010年経済産業省主催の大学生を対象にした「社会人基礎力育成グランプリ」で準大賞、優秀指導賞をダブル受賞するなど若者の人材育成にも取り組む。



今年5月、安藤忠雄氏設計の多目的ホール「夢の箱」がオープンした。アサヒビール大山崎山荘美術館。

●コーディネーター  
 京都新聞総合研究所特別理事 吉澤健吉

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千の年・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

きょうの寄寄せ(十二月)

乾鮭を  
 洗ふ師走や  
 夜の水

小沢碧童



鮭という高橋由一の絵を思い出すが、鮭の内臓を取り出して塩を振ら手に干したものが乾鮭である。歳暮の贈答品として今日塩鮭を新巻と称している。

碧童の父は魚屋兼業仲買業を営んでいたようだから、12月の掲句のような景は子どもの頃から見馴れているはず。「夜の水」の座五が灯下の作業を鮮明に捉える。(文・岩城久治)

「きょうの心伝て」

岡本千津  
 会社員 京都市中京区/48歳

「縦に書く」

自分の手で文字を書くという機会がなくなってきた。縦書きの文化は、縦向きに文字を連ねるなど日常に慣れどある。とか。書道や俳句や、好んで縦に書きたい人、でなければ、もはや「縦に書く」日本人は存在しないのではないかと。私は仕事柄メモを取る機会が多いが、ノートはもうらん横罫である。16歳の娘はいまどき珍しく(メールでなく)手紙を書くのが好きだが、便箋は横罫。76歳の母が愛用している日記帳ですら横罫だ。

先日、電車で隣り合わせた少女がスマホではなく文庫本を開いたのでチラリと見たところ、誌面は横罫のみ。なんだ実用書かと一瞬がっかりしたが、よく目を凝らして見ると、まぎれもなく恋愛小説の一場面である。小説本ですら横罫が登壇する時代なのである。

読み物から縦罫が駆逐されたら、縦に書くという日本の生活文化などひとたまりもなく忘れ去られてしまいうらう。新聞や出版物には縦罫の死守、文房具には縦書きグッズの復活を、心から願う昨今である。

「きょうの心伝て」

●あなたの思う「日本人の忘れもの」は何ですか？暮らしの中で忘れてはならないと思う日本人の心の承諾や、伝えたい京都に残る心遣いなどを寄せて下さい。京都新聞社で選考、添削する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル(12文字以内)と本文(400文字以内、縦書き)住所、氏名(匿名は不可)、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8577 京都新聞COM「きょうの心伝て」係まで、E-mail: asakuranoonoh@kyodonpo.co.jp

●日本人の忘れものは、京都新聞ホームページ/kyodonpo.jp/hp/kyo\_nm/info/nw/にてご覧いただけます。

旬 おいしく、やさしく。



漬物は古来より愛され続け、さらに京都で洗練されてきた伝統食。野菜と乳酸菌でつくる漬物には、身体の調子を整え、健康を支える成分が豊富に含まれています。科学で解明される以前より、先人たちは漬物の持つ力を熟知していたようです。「ごはん漬物のある食事」——京漬物の伝統を守り継承することは、日本の食と風土を守り健康を繋ぐこと。京つけもの西利は、自然との調和を大切に、豊かな食生活への貢献を果たしています。

京つけもの西利は、安全で安心な商品をお届けする努力をしています。保存料・着色料を一切使用していません。全ての野菜は国内産を使用しています。

旬 おいしく、やさしく。

**西利**  
 京つけもの  
 京都・西本願寺前  
 京都・四條本町

本店/京都・西本願寺前  
 電話(075)361-8181 Fax(075)361-8801  
 http://www.nishiri.co.jp